

2011年 4月24日

釜ヶ崎講座

大阪港郵便局私書箱40号

大阪市西成区萩の茶屋1-9-7

釜ヶ崎日雇労働組合気付

事務局 090-2063-7704

[kamakouza@cwo2.bai.ne.jp](mailto:kamakouza@cwo2.bai.ne.jp)

<http://cwoweb2.bai.ne.jp/kamakouza>

<http://blogs.yahoo.co.jp/kamagasakikouza>

郵便振替 00940-1-132778『釜ヶ崎講座』

### 1. 釜ヶ崎講座 第15回「講演の集い」のお知らせ

「第15回釜ヶ崎講座 講演の集い」

5月28日(土) 午後6時半から、エル大阪606号室

講師 水内俊雄 大阪市立大学文学部教授

演題 野宿生活から広義のホームレス状況への展開にどう処するか？

—野宿生活者への支援の構造は今どこまで来たのか、自立支援法期限を前に—

釜ヶ崎講座は、2012年の「ホームレス自立支援法」の延長問題を前に、昨年から「ポストホームレス自立支援法」策定を視野に入れ、講演の集いを開催してきました。まず西成労働福祉センター40年の歴史、次に援護施設、自立支援センターなどでの支援のありようなどのテーマで行いました。今回は野宿生活者への支援の構造はどこまで来たのかの全体を学習していく機会としたいと思います。

詳細は次号『釜ヶ崎講座ニュース35号』にてお知らせします。

### 2. 少し遅く、古くてすみません！去年の釜越冬の取り組み報告です！

2010年12月30日、釜講座はスタッフ含め7名にて越冬の闘いに合流しました。参加していただいた方には金沢より“なんと！寝袋持参”で来られた真宗を信仰される大学院生の人、八尾からはボランティアに関心の深い青年、そして同じく関心のある実年の方、みんなで集会、ふとんしき、人民パトロール、医療パトロールまで参加、この日は、ことさらの冷え込みでしたが全員でやりぬきました。参加されたみなさん、御苦労さまでした。

明けて2011年1月3日、PM2:00より恒例の越冬ツアーを行いました。総勢30名で釜の街を歩く時の「交通整理」は結構たいへんです。皆さん、その時のご協力ありがとうございました！水野阿修羅さんのガイドはいつもいてねいで、きめ細かい。約2時間半をかけて今回はいつもより広い範囲をまわりました。参加された方はこれで、かなり「寄せ場」の歴史の事情通になられたのでは……。

終了後は「わたなべ往診歯科」3Fで話し合いを持ちました。釜を通じる「どや」「とくそう」などの質問、野宿者支援のつっこんだ質問もできました。NPO釜ヶ崎支援機構の山田さん、釜日雇の佐々木さんが詳しく対応してくれました。このツアーは各地から若い人も参加していただき、

実年世代との交流もできました。

この項、最後に参加当日のアンケートの感想を一部紹介させていただき、終わりにします。

○釜ヶ崎を取り巻く事情について広く知ることができ、大変勉強になりました。

ありがとうございました。Mさん

○事情通の話が聞けて、理解を深めることができた。Aさん

○解説が詳しくまた、多くの場所を回れた点。Mさん

○今では姿をかえてしまった釜ヶ崎に元の姿を知ることができた。Hさん

○釜の歴史が分かり、質疑応答の回答が分かりやすかった。Tさん

○釜ヶ崎の歴史が各地点での説明を受けることで理解を深められた。Aさん

○釜ヶ崎というのが自然にできたのではなく、国・行政の施策によって作られたことがよくわかった。Sさん

○南港臨泊の見学会をツアーに組み入れるか、別日程で開催してもらえたらと思う。Iさん

○宗教的支援の必要性を感じた。Mさん

当日遠路より来てご協力をしていただき、本当にありがとうございました。次回の夏まつりツアーのご参加を宜しく願います。

### 3. 第42回釜メーデーに参加しません！！

今年も釜ヶ崎で第42回釜ヶ崎メーデーがたたかわれます。1884年に8時間労働制を求めてシカゴの労働者が起ちあがったのがメーデーの起源。釜においても長年、労働者の団結で労働者の誇りと権利を求めて起ち上がる闘いが継続されています。仲間一人、一人が安心してそして互いにたすけあって生活できる「社会的仕組み」をもとめて今年も5月1日朝、7時30分に釜ヶ崎センター下において開催されます。釜ヶ崎講座も支援の仲間達と共に講座の旗をかかげてこの集会に参加します。会員の皆さん、市民の皆さん、共に集会に参加してみませんか!!

### 4. 釜講座メンバーの佐々木さんが東日本大地震の被災地でボランティア行動を行う

未曾有の巨大地震とそれによって引き起こされた原発事故。3万人規模の死者、不明者が出ています。これに対して各地のホームレス支援団体の選抜でNPO釜ヶ崎、釜日労の佐々木さんがボランティアとして仙台におもむいて救援活動をしています。先日、現地からの報告がありましたので、ご紹介します。

「震災から1カ月がたち、当座の緊急生活対応の支援から次の段階に移ろうという状況にある。食の面ではカンパン等から調理してできる食材の要望へと進化している。これから現地の人たちが求めているのは、その第一に住宅。そしてそこに住み、生きていくための仕事の要求に繋がっていく。いかにして仕事の仕組みづくりにもっていくのか、支援の中心的課題へと押し上げていく必要があるだろう。」

この間の犠牲になられた方々に心より哀悼の意を表すとともに、東北、関東の人々の逞しい起ちあがりに連帯して、各人の持ち場での支援の行動をしていこうと思っています。釜講座も支援カンパをいたしました